

わが国の空港における観光拠点化に関する基礎的研究  
 —東北地方に所在する地方管理空港を対象として—  
**A Basic Study on Tourism Promotions at Japanese Airports**  
**A Case Study on the Controlled Regional Airports in Tohoku Region**

○仲山涼介<sup>1</sup>, 天野光一<sup>2</sup>, 西山孝樹<sup>2</sup>

\*Ryosuke Nakayama<sup>1</sup>, Koichi Amano<sup>1</sup>, Takaki Nishiyama<sup>2</sup>

In this study, we organized the cases where the airport is used as a base for tourism, targeting the controlled regional airports located in the Tohoku region. As a result, it was clarified that many events related to the area were held at the five airports and that they were used as bases for tourism.

**1. はじめに**

最近、わが国の空港は観光地などへ向かう通過点から観光の目的地として利用される事例が増加してきた。

そこで本研究では、空港が地域の観光拠点として機能し得るか、その基礎情報を得ることを目的とした。

**2. 研究方法**

わが国の空港は、空港法に基づき、拠点空港、地方管理空港、その他の空港、共用空港に区分されている。

本研究では、空港が所在する周辺地域と密接な関係を持つと考えられる地方公共団体が設置・管理する地方管理空港を対象とした。

**3. 研究結果**

本研究では、東北地方に所在する地方管理空港のいわて花巻空港、庄内空港、青森空港、大館能代空港、福島空港の5空港を対象とした。「Fly team」<sup>[1]</sup>および研究対象とした各空港ホームページ<sup>[2]~[6]</sup>から、種々のイベントや諸施設の整備状況を調査した。その結果、159件を抽出でき、それらを分類・整理した (Table. 1)。

**4. 空港・航空機に着目したイベント**

滑走路などの社会基盤施設や航空機などと関連する空港ならではの60事例が該当した (Table. 1)。

**(1) 空港施設を活用した希少な体験**

**a) 空港基本施設・土木施設の活用**

いわて花巻空港の「みんなでラジオ体操&平行誘導路マラソン」では、普段は入ることができないエプロン内や平行誘導路で、ラジオ体操や約1.2kmのマラソンなどの体験ができるイベントであった。空港ならではの誘導路やエプロンなどの施設を活かした集客イベントが実施されていた (Table. 1 (1) a)。

**b) 空港関係者による見学・体験**

福島空港「ANA 航空教室&空港見学ツアー」では、空港で働くスタッフによる航空教室の開催や滑走路周辺を巡るバスツアーが行われていた。空港や航空機について、普段より近い距離で空港関係者と接することができるイベントが開催されていた (Table. 1 (1) b)。

**(2) 空港・航空機の理解・関心の向上**

**a) 空の日イベント等(祭事的・記念イベント等を含む)**

航空に関する理解関心を高めるため、年に1度、開催されるイベントである。庄内空港の「おいしい庄内空港空の日フェスタ」では、ANAパイロットや客室乗務員の子供用の制服を着用した記念撮影やデモフライト飛行、マイクロバスによる滑走路ツアーが行われた。

Table. 1 東北地方に所在する地方管理空港のイベント等の分類結果

大項目	中項目	小項目	個数	合計	
1. 空港・航空機に着目したイベント	(1) 空港施設を活用した希少な体験	a) 空港基本施設・土木施設の活用	5	17	60
		b) 空港関係者による見学・体験	12		
	(2) 空港・航空機の理解・関心の向上	a) 空の日イベント等(祭事的・記念イベント等を含む)	43	43	
2. 空港・航空機に関連しない地域と連携した施設整備・イベント	(1) 本来の空港用途とは異なる活用	a) 他の公共・教育施設と融合	5	92	145
		b) 季節性のあるイベント実施	14		
		c) 空間の有効活用	71		
		d) 乗降客以外の飲食店利用促進	3		
	(2) 空港が所在する周辺地域との連携	a) 空港の周辺観光を実施する際の拠点利用	14	44	
		b) 地元産品の販売	14		
		c) 生産者との交流を伴う実演販売	5		
		d) 地元作家と実施するワークショップ(体験を伴う)	11		
	(3) 就航先との交流	a) 就航先のPR等(地元では入手困難な就航先の産品を販売)	6	9	
		b) 交流を伴うツアーの実施	3		
合計(重複なし)					159

1: 日大理工・学部・まち 2: 日大理工・教員・まち

その他の4空港においても、空の日イベントが行われていた (Table. 1 1 (2) a)。

## 5. 空港・航空機に関連しない地域と連携した施設整備・イベント

本来、空港が持つべき社会基盤としての機能以外の魅力が付加され、その魅力は空港が所在する地域との繋がりが密接なもので145事例が該当した (Table. 1)。

### (1) 本来の空港用途とは異なる活用

本来の旅客・貨物輸送を行う航空機が離発着を行う公共施設としてだけではなく、それ以外の公共施設としての機能が付加された活用がされていた。

#### a) 他の公共・教育施設と融合

大館能代空港は、県内30番目の道の駅として登録され、空港そのものが道の駅となった。道の駅スタンプラリーの開催や限定商品の販売など、空港利用者以外を対象とした施設が展開されていた (Table. 1 2 (1) a)。

#### b) 季節性のあるイベント実施

福島空港で開催された「クリスマスの夜空を眺めてみよう！プラネタリアム in 福島空港」では、特設ドームが設置され、寒さを気にせず安全に星空鑑賞が体験できるイベントが実施されていた (Table. 1 2 (1) b)。

#### c) 空間の有効活用

青森空港では、旅客ターミナル2階を展示会場とし、「空港絵画コンテスト展」に入賞した作品が展示されていた。その他の空港についても、絵画や作品の展示など、ターミナルビルの吹き抜け空間や会議室をギャラリーとして有効に活用していた (Table. 1 2 (1) c)。

#### d) 乗降客以外の飲食店利用促進

大館能代空港で毎月開催される「大空市」では、空港内の飲食店が店内利用以外の利用や特別メニューの提供を実施していた (Table. 1 2 (1) d)。

### (2) 空港が所在する周辺地域との連携

ただ単に、空港が集客を目指してイベントを行うだけではなく、空港が所在する周辺地域との連携が図られたイベントの開催もみられ、44事例が該当した。

#### a) 空港の周辺観光を実施する際の拠点利用

空港が周辺観光の拠点として活用された事例である。大館能代空港「内陸縦貫鉄道、秋のサイクルトレイン」では、空港を出発して往路は35kmのコースを疾走、復路はサイクルトレインに乗車して、紅葉の美しい景色を見ながら移動する内容であった (Table. 1 2 (2) a)。

#### b) 地元産品の販売

福島空港の「ふくしまニットフェア」では、地元の福島県ニット工業組合によるニット製品が直販価格で販売されるイベントが行われていた。大館能代空港に

においても「大空市」が毎月開催されており、地元で取れた野菜や果物、水産加工品等の販売が行われるなど、周辺地域との連携が図られていた (Table. 1 2 (2) b)。

#### c) 生産者との交流を伴う実演販売

地元でも普段見ることができない職人技を間近で見学、その場で作品を購入できるイベントである。いわて花巻空港の「南部点刻の実演販売」では、南部点刻の職人による実演販売が実施された。生産者との交流を伴う貴重なものとなっていた (Table. 1 2 (2) c)。

#### d) 地元作家と実施するワークショップ(体験を伴う)

庄内空港の展示ギャラリーで実施された「アロハバアの夏休み」は、地元出身の作家とぬいぐるみの制作が体験できる教室で、地域住民の参加を見据えたイベントが展開されていた (Table. 1 2 (2) d)。

### (3) 就航先との交流

空港内で行われるものだけでなく、就航先の空港やその周辺地域との交流が図られたものが該当した。

#### a) 就航先のPR等(地元では入手困難な就航先の産品を販売)

福島空港の「全国空港物産展」では、全国の24空港が参加し、普段買うことのできない人気土産を購入することができるイベントであり、就航先のPRにもつながるものであった (Table. 1 2 (3) a)。

#### b) 交流を伴うツアーの実施

いわて花巻空港で行われた「銀河のしずく収穫体験ツアー」は、名古屋小牧発のツアーで、岩手県内で米の収穫と農家民泊を行う体験型のツアーであった。就航先のツアー参加者が空港周辺の農家と交流が図られたイベントであった (Table. 1 2 (3) b)。

## 6. まとめ

本研究では、東北地方の地方管理空港を対象として、空港の観光拠点化に関する事項を分類整理した。空港ならではのイベントよりも、地域と連携したイベントや施設の整備が多くみられた。ターミナルビルの空間を展示等へ転用したものが多かったが、サイクリングの拠点利用や就航先の参加者が空港周辺の農家で民泊体験を伴うツアーの実施など、各空港が観光拠点としての活用を模索していることが明らかとなった。

## 参考文献

- [1] Fly Team : Fly Team HP, <https://flyteam.jp/>, 2020年10月19日閲覧。
- [2] 岩手県空港ターミナルビル株式会社 : いわて花巻空港 HP, <https://www.hna-terminal.co.jp/>, 2020年10月19日閲覧。
- [3] 庄内空港ビル株式会社 : 庄内空港 HP, <https://www.shonai-airport.co.jp/>, 2020年10月19日閲覧。
- [4] 青森空港ビル株式会社 : 青森空港 HP, <https://www.aomori-airport.co.jp/>, 2020年10月19日閲覧。
- [5] 大館能代空港ターミナルビル株式会社 : 大館能代空港 HP, <https://onj-airterminal.com/>, 2020年10月19日閲覧。
- [6] 福島空港ビル株式会社 : 福島空港 HP, <https://www.fks-ab.co.jp/>, 2020年10月19日閲覧。